

令和6年度 学校関係者評価(保護者アンケート集計結果)

山形県立楯岡特別支援学校

番号	設 問		%				R6年度 平均	R5年度 平均
			4段階	3段階	2段階	1段階		
1	お子様は、学校に行くことを楽しく思っている。		64%	26%	8%	2%	3.52	3.37
2	学校や学級担任はお子様の教育について、よく話を聞いてくれる。		72%	26%	2%	0%	3.70	3.58
3	学校や学級担任は、お子様の学校での様子をよく伝えてくれる。		75%	25%	0%	1%	3.73	3.61
4	学習の足跡の掲示や参観の機会などが確保され、児童生徒の学習の様子が見える。		65%	33%	2%	0%	3.64	3.58
5	お子様にとって、適切な学習目標が設定され、学習内容が「分かる」授業になるように工夫されている。		61%	34%	5%	1%	3.55	3.49
6	学校は、お子様や保護者の願いに耳を傾け、進路希望の実現や進路情報の提供に努めている。		59%	36%	4%	1%	3.54	3.45
7	清掃や施設設備の整備がなされ、明るく機能的な学校環境になっている。		75%	25%	0%	0%	3.75	3.73
8	学校生活の安全が確保され、適切な健康管理・給食指導がなされている。		74%	25%	1%	0%	3.73	3.61
9	お子様にとって意義のある交流学习、学校行事、校外学習等の企画・運営がなされている。		69%	29%	2%	0%	3.67	3.53
10	本校の教育活動や児童生徒の活躍などについて、地域に情報発信されている。		47%	43%	10%	0%	3.37	3.17
		■ 4 よく当てはまる ■ 3 やや当てはまる ■ 2 あまり当てはまらない ■ 1 当てはまらない					3.62	3.51

※1 アンケートの実施期間は、令和6年12月10日(火)から12月18日(水)まででした。

※2 10の質問項目に対し、4段階で評価していただきました。

(4:よく当てはまる 3:やや当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない)

※3 アンケートの回収件数は、110件(児童生徒数112名)でした。

令和6年度 学校自己評価(教職員アンケート集計結果)												山形県立楯岡特別支援学校大江校						
番号	内容	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%										4	3	2	1	R6 (平均)	R5 (平均)	
1	児童生徒が来なくなる、楽しい学校づくりをしている。※生徒指導・いじめ防止・ケース会も含む。											42.6	57.4	0.0	0.0	3.42	3.41	
2	児童生徒の教育について、保護者の声に耳を傾け、児童生徒の学習や生活上の課題を共有している。											57.4	42.6	0.0	0.0	3.57	3.56	
3	保護者に、共有した学習課題を中心に、児童生徒の学校での様子や成長した姿についてよく伝えている。											57.4	40.7	1.9	0.0	3.56	3.52	
4	学習の足跡の掲示や参観の機会等が確保され、児童生徒の学習の様子が見えるようにしている。											46.3	53.7	0.0	0.0	3.46	3.52	
5	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・評価により、個に応じた「分かる」授業を実践している。											22.2	72.2	5.6	0.0	3.17	3.22	
6	児童生徒や保護者の願いに耳を傾け、進路希望の実現や進路情報の提供に努めている。											35.2	61.1	3.7	0.0	3.31	3.30	
7	清掃や施設設備の整備がなされ、明るく機能的な学校環境にしている。											37.0	59.3	3.7	0.0	3.33	3.37	
8	学校生活の安全が確保され、適切な健康管理・給食指導を行っている。											46.3	51.9	1.9	0.0	3.44	3.46	
9	交流及び共同学習、校外学習、学校行事等が、児童生徒にとって意義のある企画・運営になっている。											51.9	46.3	1.9	0.0	3.50	3.26	
10	学校や本校児童生徒の理解のための地域社会への情報発信がなされている。											24.1	72.2	3.7	0.0	3.20	3.19	
11	授業研究会における助言や教育相談、学校参観等により、地域のセンター的機能を果たしている。											38.9	57.4	1.9	1.9	3.33		
12	職員のチームワークのもと、連携し支え合い、協働性を発揮して学校運営がなされている。											31.5	61.1	7.4	0.0	3.24		
											■ 4:よく当てはまる ■ 3:やや当てはまる ■ 2:あまり当てはまらない ■ 1:当てはまらない				平均		3.38	

令和6年度学校評価アンケートの結果と改善策

山形県立楯岡特別支援学校

1 令和6年度学校評価アンケートの実施について

(1) 学校関係者評価〈保護者アンケート〉の実施

保護者アンケートは、アンケート用紙を配付し、記入後に封をして提出いただき、学校評価委員が直接開封して集計を行った。

(2) アンケート項目については、経年における変動が読み取れるように、これまでと同様の内容を継続して実施した。

(3) 学校関係者評価〈保護者アンケート〉と同様の項目を学校自己評価〈教職員アンケート〉に設け、比較できるようにしている。

(4) アンケート結果をもとに、学校評議員会で令和7年度に向けての考察と改善策を提案し、助言を受け、学校運営に生かせるようにした。

(5) 結果については、3月に県に報告、保護者にお知らせするとともに、HP上で公開する。

2 アンケート結果の分析

(1) 学校関係者評価〈保護者アンケート〉

(4:よく当てはまる 3:やや当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない)【別紙集計結果参照】

① アンケートは、98.2%(110件)の回答率であった。

② 全体の平均値は昨年度の3.51に対し、今年度は3.62であり、0.11ポイント上がっている。

③ 10項目中、すべての項目で昨年度より評価の数値に向上が見られた。中でも、評価の数値が高かったのは2・3・4・7・8・9の6項目。

番号	設 問 内 容	評価	4段階+3段階: %
2	学校や学級担任はお子様の教育について、よく話を聞いてくれる。	3.70	98%
3	学校や学級担任は、お子様の学校での様子をよく伝えてくれる。	3.73	99%
4	学習の足跡の掲示や参観の機会などが確保され、児童生徒の学習の様子が見える。	3.64	98%
7	清掃や施設設備の整備がなされ、明るく機能的な学校環境になっている。	3.75	100%
8	学校生活の安全が確保され、適切な健康管理・給食指導がなされている。	3.73	99%
9	お子様にとって意義のある交流学习、学校行事、校外学習等の企画・運営がなされている。	3.67	98%

④ 評価が3.5ポイント台以下の項目は1・5・6・10であった。

番号	設 問 内 容	評価	4段階+3段階: %
1	お子様は、学校に行くことを楽しく思っている。	3.52	88%
5	お子様にとって、適切な学習目標が設定され、学習内容が「分かる」授業になるように工夫されている。	3.55	95%
6	学校は、お子様や保護者の願いに耳を傾け、進路希望の実現や進路情報の提供に努めている。	3.54	95%
10	本校の教育活動や児童生徒の活躍などについて、地域に情報発信されている。	3.37	90%

どの項目についても、4段階+3段階の%がほぼ90%以上の数値であり良好な評価と捉えることができるが、4段階の評価の数値が50%未満となっている項目10が課題である。

(2) 学校自己評価〈教職員アンケート〉

(4:よく当てはまる 3:やや当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない)【別紙集計結果参照】

昨年度までとの違いは、項目数が15だったものを精選して12に減らしたことと、評価を「個人」と「全体」に分けて行っていたものを「全体」のみにしたことである。

- ① 評価の平均値は3.38であり、各項目ともほぼ昨年度並の数値であった。
- ② 全ての項目が3.0ポイント以上であった。以下の3項目が昨年度より高く、平均値も3.5以上で、教職員が力を入れている点と言える。

番号	設 問 内 容 (個：個人、全：全体)	評価	4段階+3段階：%
2	児童生徒の教育について、保護者の声に耳を傾け、児童生徒の学習や生活上の課題を共有している。	3.57	100%
3	保護者に、共有した学習課題を中心に、児童生徒の学校での様子や成長した姿についてよく伝えている。	3.56	98%
9	交流及び共同学習、校外学習、学校行事等が、児童生徒にとって意義のある企画・運営になっている。	3.50	98%

- ④ 評価の数値が比較的低かった(3.3ポイント未満)ものは、以下の3項目であった。

番号	設 問 内 容 (個：個人、全：全体)	評価	4段階+3段階：%
5	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成・評価により、個に応じたわかる授業を実践している。	3.17	94%
10	学校や本校児童生徒の理解のための地域社会への情報発信がなされている。	3.20	96%
12	職員のチームワークのもと、連携し支え合い、協働性を発揮して学校運営がなされている。	3.24	92%

3 考察

(1)

学校関係者評価〈保護者アンケート〉と学校自己評価〈教職員アンケート〉の共通項目について比較すると、項目2・3・9について保護者、教職員ともに評価の数値が高かった。項目2・3については、保護者と教職員間での情報共有がなされ、コミュニケーションが図られているからと考える。また、項目9については、居住地校交流や学校間交流、ゲストティーチャーを招いての交流等に成果があり、体育的行事や学習発表会等の行事を学部ごとに行っていることについて、一定の理解を得られているからと考える。

項目10については、保護者、教職員ともに評価が低かった。保護者の方々には、学級や学部のおたより、校長室だよりなどを通じて学校での児童生徒の活動の様子を知らせたり、情報提供などを行ったりしている。また、情報発信を目的に、新聞やTVなどのメディアにも取り上げてもらったものも少なくない。それでも、この項目の評価が例年低くなる傾向にあるため、要因を探りながら対応したい。

(2)

学校自己評価〈教職員アンケート〉の項目5の評価が低くなっていることについては、教員一人ひとりが日々個に応じたわかる授業を工夫し実践を重ねているが、授業をより良いものにしたいという課題意識の表れと思われる。

項目12については、今年度県の事業等で本校の担当になったものがいくつか重なったこともあり、業務に負担感・多忙感を感じた職員が多かったことが、この評価につながったものと思われる。

4 改善策

(1) 学校関係者評価〈保護者アンケート〉

①・⑤・⑥について

児童生徒にとって「来るのが楽しみな学校」を目指し、楽しく充実した学校生活を保障するとともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画における適切な目標や学習内容の設定に基づき、児童生徒がより良く主体的に学ぶことができる授業を実践していく。また、進路については、これからも本人や保護者の考えや思いを大切にしながら、丁寧に相談等を行っていく。

⑩について

前述のとおり、現状において様々な形で学校の情報を地域に発信しているが、「地域」という言葉をどのように捉えるかを再確認して取り組む必要がある。今年度、保護者、学校の近隣の方々、学区の市町の方々、各関係機関の方々など、それぞれに向けて必要な情報がより効果的に発信されているか、その視点をもって学習活動を計画していく。

(2) 学校自己評価〈教職員アンケート〉

⑤について

児童生徒の指導・支援や授業の内容等についての情報共有・検討など、授業について考える時間を確保する。「授業づくりの日」の設定に加えて、会議や業務の精選をさらに行っていく。また、若手教員が指導・支援の方法等について悩んだ時などに、メンターや経験のある教員がともに寄り添って考える職場のOJTが機能するよう、皆で実践を重ね学んでいく。

⑫について

働き方改革を更に推進し、個々の業務に当たる時間を確保するために、具体的な手立てを示していく。より効果的に改善できるものについては、年度の途中でも取り入れ、そのためにも日頃から建設的な意見が出せるような雰囲気づくりと、働き方改革に関することや普段気付いたことなどを話し合う場を設けるなどの取組を行っていく。

5 記述による回答について

学校の対応や職員に対しての感謝やエールの言葉をたくさんいただき、大変有難かった。また、次のような、学校や児童生徒のことを思っの御意見、御要望等もいただいた。

・行事を学部ごとに行うことについて

⇒今年度から体育的行事や学習発表会、作業製品販売会などを学部ごとに取り組んだことについて御意見をいただいた。楯岡校では学部ごとに行った方が児童生徒にとって効果的であると考え、その良さが生かせるよう今後も工夫して実施する。

・保護者が来校する頻度について

⇒行事等で保護者が学校に行く時期が重なっていると御意見をいただいた。時期が近くなりすぎないように、また、回数についても年間の計画の中で考えてはいるが、より御理解いただけるように検討していく。

・授業時数の確保について

⇒毎週水曜日が短縮5時限になり、短縮日課が増えたことなどから、授業時数を心配する意見もいただいた。必要な授業時数は十分確保されている。また、教材研究や授業準備、児童生徒理解の時間を確保し、それらを子どもたちにより良く還元することが目的であり、意識的に行っていく。

・送迎時の駐車場の混雑具合や安全面について

⇒御協力のお陰で、事故等もなく一年間が経過した。これからも職員一人一人が児童生徒の安全を最優先に考え、対応していく。

・指導や叱り方等について

⇒指導や叱り方について教員のスキルを上げてほしいという御意見をいただいた。様々な実態の子どもたちがいることを念頭に置きながら、より専門性の向上に努めていく。

今回のアンケートに限らず、御意見等については関係者で対応を協議し、可能なものについてはすぐ改善を図るよう努めている。今後も、いただいた御意見等については、丁寧な対応を心掛けていく。

6 まとめ 『めざす学校像』の実現に向けて

(1)「児童生徒にとって 来るのが楽しい学校」にするために

児童生徒が笑顔で登校する姿や元気に挨拶する姿を目指している。そのためには児童生徒一人一人にとって興味・関心のある、取り組みたくなるような学習を用意することが大切となる。保護者の協力を得ながら、個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実を図ると共に、系統性のある学習内容を実践していく。【項目 1・5・9、(教) 1・5・9】

(2)「保護者にとって 安心して任せられる学校」にするために

保護者との直接的・間接的な対話や学習の様子への参観、学級だよりやホームページを活用した学習の様子のお知らせ等をとおして、学校の取り組みや児童生徒の学習活動の見える化を推進していく。また、学校生活アンケート等で出された意見等について、丁寧に検討・対応していく。【項目 2・3・4・6・7・8、(教) 2・3・4・6】

(3)「地域にとって 信頼して相談できる学校」にするために

特別支援教育における地域のセンター的機能として、地域の学校等からの相談や要望に応えられるように努めている。各要望に対応する際には、チーム楯特として対応する体制・意識づくりを今後も大切にしていく。学校や障がいのある児童生徒の理解推進を目指す情報発信と教員の専門性の向上が重要と考える。【項目 10、(教) 11】

(4)「教職員にとって 働きやすく働きがいのある学校」にするために

児童生徒の成長や進路の実現等が、教職員の働きがいの大切な要素となる。働き方改革を推進し、児童生徒と向き合える時間を確保していく。また、職場全体で仕事を協働する意識を持ち、よりお互いに助け合う、助けを求めやすい職場を目指す。そのための考えや意見を出す機会を具体的に設けていく。【項目 (教) 12】